

## 大沢地区まちづくり懇話会 “おおさわ茶論”

日 時：平成 30 年 6 月 27 日（水）18 時～

場 所：大沢公民館

テーマ：魅力ある地域づくり

次第：1 開会 地域振興課長

2 挨拶 日光市長 大嶋 一生

3 意見交換

4 その他

5 閉会

### 《意見交換内容》

参加者 1 大沢地区のテーマが魅力ある地域づくりということで、自分なりに考えました。ずっと大沢に住んでいるのですが、引っ越しを考えている方に、大沢地区は魅力のあるところだよという話になった時に、何が魅力なのか考えてみますと、生活していく上で生活しやすいということです。若い世代から考えていきますと、結婚されてすぐ大沢地区に縁があって住んでみたけど、ここで子供を産んで育てるのはどうだろうとか考えると思います。そういう時に日光市内全体を見て、子供を産めるような産婦人科があるかということと、子供がもし病気になった時に 24 時間のような体制で、すぐにかかれるような子供専門の病院があるのかどうか、生活がしやすい 1 つの条件に入ってくるかなと思います。それと、子供を育てやすい環境というのがありますが、もちろん保育園や小学校などが身近に通園・通学できる範囲にあることが、やはり条件かなと思います。ただ、それだけではなくて、日常の空いている時間に子供を遊ばせられる、安全・安心の場所があるのかどうかも条件に入っていると思います。また、教育面で言いますと、学校がどうなのかです。大沢地区ですと、猪倉小学校や大室小学校、大沢小学校と大沢中学校があり、またがっていますが今市中学校があります。それから南原小学校ということで、学校については、かなりあります。中身も充実しているかなと思っておりますが、学校の環境の整備ということで、学校に出入りする道路がどうかと思うところがあります。大沢小学校と大沢中学校は並んでいるので、国道から出入りする道路が 1 本しかないのです。その出入口には信号もありません。特に朝の登校時間帯は、バイパスから来た車で、大沢の宿の信号から渋滞になります。下から来ても、上から来ても、学校に入るというのは時間的にロスがあります。学校から出るのは、非常に出づらいのです。学校行事の時は父兄等の出入りが、非常に心配になります。出入口のところは、危険でもあり、出づらい、入りづらいということで、ずっと悩んでおりました。八日市の方に行きますと、道路が狭いのです。車が通っても行き違いできないので、朝の通学時間帯によっては、一通になったりしますが、不便を感じております。特に学校に出入りする道路については、119 号線は国道ですから、市役所にどうかしてくださいというのは難しいと思いますが、八日市側の方は、少なくとも時間帯で一通にしたり、子供たちが通学している時だけは車が通れなくなるよう、道路幅に拡張していただけるような計画を持っていたいただければ、ありがたいと思っております。これは、長年かけてやるということではなくて、早急に検討していただきたいと、私は思っております。それから、以前もお話があったと思いますが、大沢地区には人が集まって、健康的に遊ぼうとか、健康的に運動しようとか、子供を遊ばせようとか、そういった交流がないのです。また、まわりを見ますと、今市地区には大谷川が流れていますので、大谷川河川敷を使って公園ができたり、高齢者も遊べるようなランドゴルフ場などが整備されていて、中心の方だけが開発されていて、他の地域のところは、まだそういったものの開発がな

いのではないかと、私は痛切に感じております。その辺のところを、早急に、真剣に考えていただければと思います。道路のことでもう1つなのですが、日光市内の道路を走っていると、環境整備が必ずしもされているとは言えないような、道路の状況です。大きな道路は歩道があります。歩道と車道の境目に縁石があります。縁石の内側と外側に草がたくさん生えていて、見た目に良くないと思います。道路の環境整備ということで、大きい道路もそうなのですが、小さい道路にしても、車道と緑地との境のところに、草がたくさん生えてきていて、やはりみっともない気がしております。車で走っていても、散歩していても、そういうことが感じられます。どこを通ってもそうですが、管理されている道路とは言えないと思います。大きな市道、県道、国道にしてもそうですが、歩道と車道の間に植込みがあります。植えてあるのはいいのですが、違った草が大きくなってきて、伸び放題になっています。道路環境についても、検討していただければと思います。

**副市長** 公園については、他の方からも意見が出ているものですから、後からお話させていただきます。進入路の話と、道路美化についてお話をさせていただきます。

**建設部長** 道路関係について、4点ほどご意見をいただいたと思います。1点目の信号がない、出入りが非常にしづらいということで、信号については、交通管理者の警察署がやるかたちになります。管理する警察の方に協議させていただきたいという考えでございます。2点目の学校から後ろの市道については、土沢～八日市線と申しまして、小学校から新里街道に向かって、日光宇都宮道路のボックスをくぐってから、道路を実施する予定でございます。今年度に用地の買収をさせていただいて、早くて来年度以降に6.5mの道路にしたいという考えです。今年用地の測量をして、用地の取得をして、取得ができれば道路の拡幅はできると思います。3点目の国県道を含めて市道の美化環境についてですが、大きな市道の草刈につきましては、警備員を配置して専門的な業者の方をお願いしております。全てそのようなかたちで、市でできればいいのですが、市道はかなり長くて、市のほうで全て対応するという事は難しい面がありますので、自治会の方もご存じだと思いますが、道路愛護活動によって、広く市民の皆さまに願いをしているところであります。この活動につきましては、市から使い捨ての手袋など雑品の補助金を出してお願いしております。また、草刈の時に事故でもあった時には、補償の制度も取り入れております。市道の状況にもよりますが、ぜひ、地域の皆さまにご協力いただければと、市の方では考えております。国県道の植え込みについては、定期的に栃木県の方でやっていると思いますが、時期的には春とお盆前とかお彼岸前とかに、業者の方をお願いしていると思います。その辺もご意見があったということで、国県道の植え込み、高木の剪定などにつきましてはお伝えします。市道については、できることはやるのですが、地域の方をお願いしたい部分については、市からの補助金的なものを使っていただきながら、ご協力いただければと思います。

**副市長** 内容的に見させていただいて、生活上の安全の問題ですとか、その辺のことについて書かれている2番の方をお願いします。

**参加者2** 平成町には南原小学校と大沢小学校、大沢中学校の3つの学校があります。大沢小学校で吉田有希ちゃんの事件がありましたが、うちの地区については、防犯カメラはどうかかなと考えたことがありました。テレビなどで見ますと、今の時代ですから街の中のあらゆるところにカメラが付いています。それで、多少なり防犯になるのかなと思います。私の近所で窃盗があった時に、うちには防犯のためにカメラを付けているの

で、警察が見せてくださいというので貸したことがあります。大沢地区の県道沿いにはカメラがほとんどないのです。栃木銀行とかに防犯上のカメラはありますが、南部地区の集まりの時、店長にカメラの角度を少しでも道路の方を映して欲しいと話したことはあります。それは限界があって、どうしたらいいのか考えた時に、吉田有希ちゃんの事件が発生した地区に関わらず、通学路には多少なりの防犯カメラを付けたかたちになっています。日光市の条例の中に、カメラ設置基準というのがあります。公民館に設置するという基準がありますが、平成町公民館がいたずらされまして、対策の方法がないかお尋ねしたら、カメラ代の3分の2は日光市で出してくれると聞いたのです。大沢地区の自治会は25あるわけですから、それぞれが、その助成金を上手く利用して、公民館なり周囲のデータをとれば、何かの時に役に立つと思います。2、3年前に公民館が荒らされて、テレビなどが盗まれました。うちの自治会は頻繁に活動をしているので、そういうことはなかったのですが、地域によっては1カ月に1回しか開けないところもあるので、開けてみたらテレビがなかったようです。防犯カメラは付いてなかったのも、やれとは言いませんが、こういうルールがあるのなら、設置について協力体制をつくっていただきたいと考えております。できれば防犯のモデル地区になってもいいのかなと思います。痛感するのですが、大沢小学校のまわりでは、会議を活発に行なっていますが、高齢化によってだいが減ってしまいました。その反面、南原小学校の方は事件がないので、危機感がないと私は思っております。やはり全体的に協力し合ってやっていければと考えております。今の時代ですから、育成会に入りません、自治会に入りませんということがあります。育成会は自治会で運営しているので、自治会に入らないで育成会だけ入られてしまうと、会費の問題等があります。大沢地区については、一切そういうことがありません。学校が違えば自治会に入らないで、育成会だけ入りたいとか、自治会でいろいろ募集するからとなると、私は自治会活動が嫌いですということもあるので、カメラとは関係ありませんが、その辺も踏まえてカメラを設置していただきたいと思います。もう1つは、2つの小学校と1つの中学校がありますが、子供110番の連携ができていないと思います。私は大沢小学校の見まわり隊に参加した時に、平成町には子供110番が1戸しかない、南原小学校の方には、別な子供110番があるわけですから、学校に行く時と帰る時しか考えていないのかと学校に言ったのですが、子供が遊んでいるのは昼間なので、その子供たちがいざという時、逃げこむところが分からない、自治会でも把握しておりません。自治会で把握していれば、そこが高齢化とか留守にしているとか分かるので、そういうところをリストアップしてもう少し意味のある子供110番にしてもらいたいという意見です。

**市民生活部長** おっしゃるとおり、防犯カメラにつきましてはその通りでございまして、各自治会や団体の方が設置したいという時には、市が4分の3の補助をさせていただいております。市としては、公共施設などに付けておりますが、一般の地域については、各地域にお願いしているスタンスをとっております。モデル地区というご意見もございましたが、他の市内の地域では、複数の自治体の皆さんが協力をして、設置している事例も何件かございますので、地域で良く相談をさせていただいて、活用をしていただければと思います。何台以上はできないとか、そういったことはありませんので、必要な分だけは支援できる制度ですので、生活安全課のほうへご相談いただければと思います。

**教育次長** 子供110番の家というのは、基本的には学校単位で、通学路沿いのところのお宅にお願いして設置しております。隣あった学校同士の連携というのは、していないところです。通学に限らず、子供たちがどこに逃げたらいいのかというのは、各学校単位では保護者宛てに通知したり、子供たちは毎日通学しているので、看板も出ているので分かっているところですが、他の学校区域になってしまうと、そこまでは知識がないとい

うのが実状だと思います。どういうあり方がいいのかというところは、少し考えさせていただいて、他の学校の部分も連携を図るとかが必要かなと思います。

**副市長** 次に生活安全という視点で、3番の方をお願いします。

**参加者3** 10日ほど前に大阪で地震がありました。自治会を預かるものとして、万が一地震があった時に、自治会長が地域内の人を全員把握しているかという点、なかなか難しいです。特に、介護が必要になったとか、そういう人が地域には当然おりますので、その辺の情報を市の方から少なくとも自治会長に出してもらえませんか、確認したいと思います。もう一つは、私は水無なのですが、大沢小学校と水無集落センターを避難場所として指定してあるのですが、それぞれの地区に避難場所があると思いますが、その避難場所の建物の基準の確認を、市の方ではしているのですか。水無集落センターは木造なものですから、潰れてしまうのではないかと気にしているので、その2点についてお聞きします。

**健康福祉部長** 1点目の災害時の要支援者の援護についてですが、避難行動要支援者名簿ということで作成しております。本人から開示することを同意していただいている方については、毎年、年度ごとの名簿を自治会長さんに10月ごろお渡ししていると思います。通常時は、本人から同意があったものということですが、災害が発生した場合、あるいは災害が発生する恐れがある場合は、本人の同意に関わらず名簿を提供することは可能です。今年の10月頃には、また新しい情報を盛り込んだものを、お渡しすることになっております。

**行政経営部長** 避難場所指定の基準ということですが、耐震の新しい建築基準法が、昭和56年6月1日にできております。これ以降の建物であることと、土砂災害の警戒区域内に含まれていないことです。要件ではないのですが、避難経路が危険でないことを合わせて、避難場所として指定しております。水無集落センターを調べたのですが、昭和56年10月建築確認ということで、古いのですが基準はクリアしておりますので、指定させていただいております。

**副市長** 次に7番の方をお願いします。

**参加者7** 私は、子供たちが安心・安全で住みやすいまちづくりが魅力のまちなかなと考えております。連日のように色々な痛ましい事件が起きていますが、大沢小学校は活発に活動していると思いますが、ある都市にいった時に防災無線を使って、注意喚起を流している市があったのですが、地域で守ることが、大きな主力になるのかなと思います。防災無線を使って、子供たちが帰りますという注意喚起を促して、見守りを地域の方をお願いしている取り組みもあるので、書かせていただきました。あと、安心して遊べる場所ということで、私は少年指導員もやっていますが、街頭指導に行っても子供たちに会うことがなかなかなくて、スーパーに行ってもお母さんたちと小さな子供たちがいる程度で、遊ぶ場所もないのかなあとと思います。大沢地区は、どこに行っても子供たちが見当たらず、やはり地域で抑止力を高めるためにも、市民一人一人が安心・安全のまちづくりということで、意識を高めるだけでも大きいと思わせていただきました。もう1点なのですが、今日は人数の少ない学校の1年生の教室を見たのですが、女の子たちと男の子たちが汗びしょりでした。聞いたら7月にはクーラーが入りますと言っていました。予算の関係もあると思いますが、基

準をどのように決められて、どのような予算配分なのかと思います。南原小学校は、大沢学区なのですが今市地区だから早めにクーラーが入っているという話を聞いたので、その辺の基準について教えてください。

**行政経営部長** 防災行政システムについてご説明します。この防災行政システムなのですが、今年度から全地域で運用がはじまったところなのですが、今市と栗山は新規でできたということもありまして、全体的に基本的な運用基準の検討を進めているところです。ただ、基本として第一に災害情報を流すことで、身を守っていただくということなので、情報提供が頻繁になってしまうということは、あまり好ましくないということで、原則として緊急性の高いもの、また時期をとらえた今日は何々の日ですとか、何々がありますとか、そういった、その日に流すことが必要な情報を基本としております。このようなことから、検討の基準にはあがる事例だとは思いますが、やはり全市的なことでありまして、毎日の登下校時の放送は難しいかなと思っております。ただ、現在防災メールで不審者情報を流しております。これに加えて、本当に緊急性の高い不審者情報や犯罪に関する情報であったり、今すぐ注意喚起が必要なものにつきましては、担当課や警察署のほうとも連携をして、システムからの放送の対応はすべきものと考えております。

**教育次長** エアコンの設置の問題ですが、年次計画の資料が手持ちでないのですが、今年度すでに10本程度入札をしまして、順次整備しているところです。学校の安全衛生基準法で気温が28度とか30度を超える場合には、ある程度エアコンの設置が必要かなということで、順次整備しております。3年前ぐらいから温度を測定したりしているものですから、高い温度のところから順次やっております。あと、トイレの改修などもやっているの、他の工事の絡みとかを見ながら順番を決めています。今年度ですべては終わらないのですが、順次整備させていただいているところで、差が出てきてしまっております。

**市民生活部長** 安全・安心の防犯団体の関係ですが、おっしゃるとおり年々、団体の数が市内全体でも減りつつあります。ただ、この大沢地区にあるひまわり隊は、市内の代表的な団体でありまして、他の市内でどんな取り組みをしているか情報をお知らせしたり、そういったことを市の方でもやっていきたいと思っております。平成28年度に全体の防犯団体の方に集まっていたいて、意見交換などをしたところなのですが、やはり地域によって、いろいろな事情がございますので、活発に運動していただいている団体の事例などを紹介して、市全体の防犯意識の向上につなげていければということでございます。

**副市長** 生活の安全という観点もあるのですが、もう少し生活面での部分で、10番の方お願いします。

**参加者10** 1番に書いた市道のことなのですが、先ほどもおっしゃっていたところでもあるのですが、私は富山出身なのですが、第一印象で思ったのは道のまわりに雑木林が多いとか、草が多いと印象として受けました。ただ、それが防犯の面からどのくらいかというのは分かっていなかったのです。大沢小学校では、必ず1年に1回、安全マップづくりとあって、子供たちと先生たち、親も一緒に、自分の通学路を見て回って、どこが危ないかというのをチェックしているのです。その際に草が多いところというのを子供たちはあげていて、そこが怖いというのです。それと一緒にあがるのが、この家は人が住んでいるのかなという空家です。空家の問題というのは、子供たちからもあがっているのです。それは、学校のほうで全部ピックアップをして、

大沢小学校では子供たちが自分の身を守るために把握はしております。市道の件は、予算的に厳しいと先ほど伺ったのですが、空家というのは、今のようなかたちで情報収集されているのですか。空き家バンクというのは、再利用のためのものだと思いますが、これは誰が管理しているものなのかなど、市の方でデータ化されているのか知りたいのです。もし、データ化されていないということであれば、例えば、自治会単位で情報を集めて市が吸い上げてくださるとか、空家に対してどのような対応をされているのか伺いたいと思います。

**市民生活部長** 空家については生活安全課で担当しております。空家につきましては、昨年、空家計画というのを作りました。それに際しまして、前の年に市全体の空家の調査はさせていただいております。数からいきますと、市全体で1,780軒になっております。その状態などを調べまして、わかる範囲で所有者などに通知をして、今後どうするかというアンケートも取らせていただいております。すべてデータ化しております。それを、活用できるもの、危険な状態のものとか仕分をしまして、活用できるものは活用する部署の方に情報を提供しております。ただ、数年経ちますと、新たな空家も出てくると思いますので、その辺は地元の自治会のほうで情報がありましたら、そういったものをいただいて、新たに登録していきたいと思います。現状としては、そのようなことになっております。

**参加者10** もし、自治会の方から情報が提供されたとき、学校側にこの空家はこういう状態ですと一緒に提供していただけますか。

**市民生活部長** 現状では情報提供はしていませんが、そういった必要があれば、データは提供できるかと思えますので、その辺は教育委員会と相談させていただきます。

**副市長** 生活環境の観点から、11番の方をお願いします。

**参加者11** 今、消防団員の確保が非常に難しくなっております。今、管内の4分団で80名をきるような状態です。5年前は100名おりましたが、ここ数年、団員の確保ができないという分団がではじめましたので、5年前に山口と根室、薄井沢を1つに統合しました。その翌年に、大沢と水無を1つに統合を進めてまいりました。統合はしたのですが、その後の問題として、団員を維持するのは、今入っている団員は維持できるのですが、今後入ってくれる団員がなかなかいないのです。この大沢管内は、非常に減少が激しくて、若い世代の方がここで所帯を持ちたいという気持ちはあるのですが、お嫁さんをもらうとなると、やはりここにはいられないということです。その理由というのが、どうしても異臭ということです。そういう話が出まして、今、何名かは宇都宮のほうから通って、大沢の団員をやっている方がいらっしやいます。団員が入らないということをつつまでも引っ張り続けられないので、今後の対応として、今市管内の消防団員は、市の職員の方が頑張っていて、部の中を活発にしてくれて、あらゆる面でカバーしてくれる状態でもあります。この臭い問題は仕方ないことだと思うのですが、今後、若い世代をいかに地元に残しておくか、やはり、この魅力ある地域づくりというのは、そういったとこに繋がっていくと思うので、地域でまちおこしをしたほうがいいのか、色々あると思います。大沢地区の消防団員の確保と、若い方が地元を離れるという実状を皆さんにお伝えしたいと思います。あと、ゴミのポイ捨ての件ですが、私は猪倉の方なのですが、ゴミが有料化になりまして、非常にポイ捨てが増えていまして、どうしてもスーパーの袋にゴミを入れた状態で、捨ててあるものが多いのです。パト

ロールをしているのを見かけたのですが、道路に落ちていても拾わずに行ってしまいました。パトロールしている方がいるのであれば、目につくものだけでも拾っていただくことはできますか。

**産業環境部長** 臭いにつきましては、地元の自治会や対策委員会と業社で協定を結びまして、改善計画というのが昨年出されまして、それに基づきまして自治会と対策委員会が四半期に1回、工場の中に入って立ち入り検査を行ったり、事業者の方と意見交換を行っております。悪臭防止法という法律に基づきまして、市ができることには、工場に立ち入りとか改善命令とかがあります。それに付随しまして、市独自で週2回、職員が周辺16カ所をモニタリングしておりまして、異常を感じた時には、職員が事業者のところにいきまして、臭いについて指導をしているところです。年4回、事業者をお願いしまして、臭気測定も行っております。また今年になります、環境省の委託事業ということで、臭気対策の専門家の方にお出でいただきまして、実際に事業所を見ていただいて、臭気を少なくするにはどうしたらいいのかというのを検討していただき、業者の方に助言を行うということです。助言につきましては、色々な方法があると思いますが、お金がかかることもあれば、お金をかけなくてもできることがあるかもしれない、そういったところで、事業者の方に検討していただき、それに基づいて、市のほうも事業者に対して指導していくと考えております。なかなか臭いというのは難しい問題ですので、努力していきたいと思っております。また2つ目のゴミパトロールについてですが、廃棄物対策課の方でやっている事業で、実際に4名の方が2名2班にわかれて、市内を巡回パトロールしているのですが、2年前くらいに、ゴミを拾っていかないという案件が多数寄せられました。その当時、私は課長をしておりましたので、指導はいたしました。なかなか難しい問題で、当初は不法投棄物の発見や、そういったものの回収ということで、どこまでが不法投棄物なのだというところもありまして、なかなか指導が追い付かなかったのですが、市民の皆さまからご意見をいただきまして、できるだけ道路のゴミは拾ってくれるようにということで、2年目から指導はしておりました。改めて廃棄物対策課の方へは、なるべくゴミの回収については協力するようにと、申し伝えておきます。

**副市長** 次に、やはり生活の中の話なのですが、6番の方をお願いします。

**参加者6** 高齢者の見守り活動を通じて痛感したことです。その中で、テレビ等で事故のニュースがあったので、ここで免許を返納したら生活できるのかいろいろ悩んだ末の結果、事故を起こしてからでは間に合わないということで返納したそうです。そしたら、生活をする上で、足がないというのは、こんなに大変なことなのだと痛感したそうです。その方は足があまり丈夫でないので外出もままならないという状態で、散歩もあまりされていない方なのです。生活上の必要最低限な外出もできないということで、できればデマンド交通とかそういうシステムとか、また何かそれに代わるものがあれば、公共の交通機関を進めてもらえればいいなというお話がありました。この提言をしたあとの6月17日、下野新聞の一面に大きくデマンド交通のことが掲載されておりました。100%の市が多い中で、日光市は下の方なのです。そのものが、きちんと確立されていないのではないかという思いがありました。その辺の地域の状況を把握していただいて、それに沿った交通網を整備していただけたらいいなと思っておりました。今、走っている日光市のバスを利用して、病院等に通っている方もいるのです。その方によりますと、病院が終わってから、次のバスまで2時間もあり利用の使い勝手が悪いので、時間帯も考慮していただけたらと思っておりました。

**市民生活部長** 生活安全課が担当しております公共交通ですが、やはり昨年に公共交通の市の計画をつくり直しまして、各地域に出向きましてお話を伺いました。当然、この地区でも同じようなご意見をいただいております。公共交通空白地域ですが、日光市はカバー率84%なのですが、鉄道の駅から1.5km以内、バス停から300m以内、それ以外は空白地域ということで、16%の地域ということになります。この大沢地区におきましても、国道から東側の地区でバス停まで遠いということは、その時に分かっておりまして、その中で、その地域内で移動できる交通手段を考えていきたいと思いますというので、計画の中でも記載させていただいております。公共交通の手段というのは、市全体、日本全体で困ってくるだろうという課題だと思います。国のほうでも検討会をつくって検討はさせていただいております。具体的にどうとは言えませんが、民間事業者が手の届かないところについては、地域の力で、そういった交通をやっていきたいと思いますという制度もできつつありまして、有償運送という白タクを合法的にできるという制度もあります。特定の方を特定の場所に運ぶとなりますと、究極的にはタクシーになってしまいますので、そこをいかに、地域の力でどれだけ支えられるかといった仕組みにならざるを得ないのです。全部が全部行政とはいきませんので、その辺は前例を研究して、日光市に合う手段を見つけるということをしなければならないと思いますので、引き続き全体として検討をさせていただければと思います。

**参加者6** 高齢化が急速に進んでいますので、その辺は近々の課題だと思います。日光市もモデルになるような、いいシステムができるといいなと望んでおります。

**健康福祉部長** ご質問の中に移送サービスについて記載がありましたが、基本は公共交通ということになりますが、それ以外で市のほうでやっております移送サービスというのは、高齢者の方で、なかなか公共交通を利用できない方に対して提供しております。基本的には、医療機関に通うのは生活の必須の話になりますので、そういった方に対して移送サービスを提供しているということで、あくまでも公共交通の中で、身体的、金銭的に難しいという方を支援するという形になっております。

**参加者6** 移送サービスの方も、ある方に提案したのですが、移送サービスを受けられないというのですが、経済的にタクシーを利用するのは無理なようなのです。

**健康福祉部長** それには、民間で福祉有償運送というのがありまして、身体上、障がいがあって公共交通が使えない、ただ、市が行っている移送サービス、いわゆる低所得者向けの基準にも該当しない方については、福祉有償運送をご利用いただければと思います。有償ですのでお金はかかりますが、公共交通よりは安めに設定されていると思います。

**副市長** ここからは魅力ある地域づくりに沿って、魅力ある施設という観点で3番の方をお願いします。

**参加者3** 水無と大沢の間に杉並木があるわけですが、何年か前から車両通行止めにして、一般車両が入れないようになっているのですが、観光バスで来た人が、水無で降りて大沢まで歩いていたのです。話を聞いたら、非常に感じがいいということで、夏は日が当たらず涼しいということもあって、遊歩道のように市の方で考えてもらって、できたらいいのではないかと考えております。そのために、周りをきれいにするとか、ベン



チを置くとか、案内板を設置するとか、観光バスの駐車場、そのような形で杉並木を上手く利用するといいか  
なと思います。

**観光部長** 市としまして、杉並木街道というのは貴重な地域資源であるとは認識しております。現在、シル  
バー人材センターの方で観光ガイドということで、杉並木観光ガイドというものを行っております。こちらは、  
場所が市縁ひろばからのコースになるのですが、今おっしゃられたようなものがございます。また、観光協会  
の方では、まち歩きのパンフレットなども作って、杉並木自体はPRしておりますし、まち歩きツアーというの  
も行って、その中に、杉並木を取り入れてやっております。シルバー人材センターのガイドは、3月から動き  
はじめたのですが、状況的には、団体でも構わないのですが、市縁ひろばに来られた個人の方で、興味のある  
方がガイドを受けているということです。団体様のニーズ、個人の方のニーズといろいろなものがあると思  
いますので、そういったものに合わせた形でのサービスだと思います。関係団体等ございますので、今いただき  
ましたご提案は情報提供させていただきます。

**参加者3** 鬼怒川温泉に行った人など、車で帰りに寄れるので、観光的にもいいと思います。

**建設部長** これから日光土木事務所は杉並木の保護のために、新しくバイパスを整備しております。板橋バイ  
パスを整備したことによって、今、例幣使街道は通行止めのところがあります。新沢病院から下も通行止め  
しております。上今市のところは、まだ通れますが、ゆくゆくは並木のところをふさいでいくところが増えて  
いきます。風が吹くと落ちる、大雪が降ると太い枝が落ちる中で、観光ルートとして維持をしようとする  
と、結構経費がかかると思います。観光客に歩いてもらうのに、水無地区がいいのか、例幣使の方がいいのか、新  
沢病院の下の方がいいのかという、そこにいろいろな議論が出てくる可能性があります。その辺はお含  
みおきいただければと思います。

**副市長** 温泉施設の話が中心の4番の方お願いします。

**参加者4** 大沢地区は、日光市の中でも比較的に人口が増加しているのか、人口を維持しているので、発  
展している地区だと思います。私も住んでいて杉並木や二宮尊徳先生の水道とかが身近にあるのですが、生活  
する上では、自然環境もいいところなのですが、大沢地区の魅力を考えてとき、楽しめる場がないのかなと思  
います。他の方が提案している公園もそうですが、私の楽しみの1つで日光の温泉、大沢地区には公共の温泉  
施設がないのです。民間では森友の湯があるのですが、何か楽しめる温泉施設などがあれば、大沢地区の魅力  
的なものにつながるのかなと思提案させていただきました。2つ目に、日光宇都宮有料道路に、今、石那田  
インターチェンジをつくっております、工事の進捗状況を見ながら通勤しているのですが、インターチェン  
ジができることによって、日光市の南側の沢地区としても、何か活用法を考えているのかということと、日  
光宇都宮有料道路を地図で見ますと、今まで徳次郎インターと大沢インターの間が区間として広くて、石那田  
インターチェンジができて大沢インターチェンジまでは広いので、もう1つインターができてもいいのかな  
という要望です。そういった構想はあるのかお聞きします。

**観光部長** 温泉施設についてですが、温泉施設も含めた公共施設ということになるとと思いますが、日光市の方で総合計画を策定しております、その中に記載されているものを読ませていただきます。「日光市が抱える公共施設などを、現状のまま維持・更新することは、財政面から見て困難な状況であり、今後の市政運営に大きな負担になるだけではなく、市に必要な行政サービスまで影響を及ぼし兼ねない状況にあります。また、将来的な人口減少や社会情勢の変化に伴って、公共施設の求められる役割やニーズも大きく変わっていくことと考えられます。このようなことから、特に公共施設のハコモノについては、既存の公共施設が市に必要ななどを、全体の視点で検討する必要があります。」と記載があります。こういった観点から、今後の公共施設につきましては、必要財源、費用対効果等も含めて、記載にあります全体の視点で検討していきたいと捉えております。

**建設部長** こちらから宇都宮に向かって、石那田の田川を渡ってすぐ右に猪倉方面に向かう県道がございます。そこに日光宇都宮道路の入り口ができます。日光宇都宮道路の下をくぐってから出口ができます。このインターからは、日光方面に行けないので、宇都宮に向かうのと、宇都宮のほうから降りるというものになります。料金は100円と聞いております。来年春には竣工できると、道路公社から伺っております。今、お話をいただいた利活用の件ですが、インターチェンジを降りて、119号線の方に向かっていく、また、猪倉方面から今市方面に向かう車両があるのですが、県道が一部狭い部分があります。今後、道路を降りてきた車両に、一部交通に支障が出るのかなという感じがします。市の方では、新里街道の鞍掛トンネルから119号線へ抜ける道路が狭いということで、県の方へ拡幅の要望をさせていただいております。県のほうでも、石那田インターができる関係があって、狭い部分については随時対応していくというふうには伺っております。PRについては、通行車両の状況を見ながら、観光的なPRも含めながら道路利用ができるか判断していきたいと思います。また、大沢から石那田までの間に、もう1つインターチェンジが欲しいということですが、現段階では、管理する道路公社の方では、費用対効果のこともあって、構想はないというところでございます。

**副市長** ふれあいの場の確保ということで、3番の方をお願いします。

**参加者3** 2週間前ほどに船生の百目鬼という自治会で、お母さんたち5人でサロンをやっているのです。最初は公民館を使ってやっていたのですが、働いているお母さんと、そこに集まってくる方は女性が多いようです。月2回やっているのですが、水無も高齢化率が高いので、自分の地域でやっていくことも大切なのかなと思います。これから必要な事業なのかなと思います。市からの助成なども含めて、お聞かせください。

**健康福祉部長** 今後、高齢者が増えていく中で、1つは介護保険サービス、高齢者サービスというのは、継続していかなければならないと思います。その中で、元気な高齢者の方が気の休まる場所というのは、市としても今後増やしていきたい、各地域でできればと考えております。今、生活支援体制整備事業というのがありまして、各地域で生活支援コーディネーターを中心に検討していきましょうというのがありまして、その中で、市内でもいくつかの地域でサロンをつくりましょうということで、実際にできているところもあります。今後、そういったものを増やしていく上では、行政の方の支援もある程度なければ、なかなか広がらないというご指摘もいただいております。市の方でどの程度できるかというのがあるのですが、ご支援できる内容を検討しているところもありますので、今後お示しできるのかなと思います。他の自治体でやっているものもあるのですが、

サロンづくりのきっかけになるような支援とか、最低限サロンを維持する上での支援をやっているところが多い状況です。今後、市として考えていく上で、それと似たような感じで検討という形になると思います。

**副市長** 活動の話になるのですが、13番の方をお願いします。

**参加者13** 現在、体育協会を運営するにあたって、大沢地区に限らず、少子高齢化などによる参加率の減少が、旧今市市の5つの地区の大きな問題になっています。大沢地区においては、いろいろな検討会を含めて、新しい種目の導入などにより、何とか運営はしております。市民の体力づくりとして、ソフトボール大会と婦人バレーボール大会を行っていました。ところが、旧今市市だけが出て、他の地区が出ないということで、平成29年度で廃止になりました。日光市にある9つの支部長を集めて、いろいろ検討会を行ったのですが、旧今市市は出るけど他が出ないということで、終わりにになりました。ところが、各支部というのは、人が参加しないのを何とかしようと、一生懸命努力をしているのです。ところが、行政のほうは、人が参加しないから簡単に物事をやめていいのかというのが議論になりました。各支部は、とても人を集めるのに努力している、行政の方は、人が出ないからやめますと簡単に決めていいものなのか、その辺についてお聞かせください。

**教育次長** 行政の方で、人が参加しないからやめましようということではないと思います。スポーツ振興課といたしましても、体育協会の協力なしでは、スポーツイベントはままなりません。このソフトボール大会や婦人バレーボール大会についても、ご協議はいただいたところだと思います。1回やめてしまったものが、また復活するというのは、かなりの労力が必要だと思いますが、ニュースポーツ活動とか、色々な活動を大沢地区の体育協会でもやっていたらいいと思いますので、色々なメニューがまだあると思いますので、皆さんが参加するような大会ができるのかどうか、体育協会の方とも相談させていただければと思います。決して、人が参加しないからやめてしまえということではないと思います。

**副市長** 次に子育てについて、10番の方をお願いします。

**参加者10** 私は外国人と接することが多い仕事をしておりまして、その絡みで、大沢地区で外国にルーツを持つ方々の日本語支援を目的とした、ボランティア活動をはじめました。それにあたって、外国にルーツを持つ方がどのくらいいらっしゃるのか把握をしたくて、まず国際交流協会に確認に行ったところ、全部把握しているわけではないということです。観光で来ている外国の方ではなくて、定住している外国人の方を、去年10月くらいの時点で観光協会のほうでは数を把握していないとのことでした。私の子供のこともあり、就学している保育園、幼稚園、小中学校に、もしかしたら通っている方がいらっしゃるのではないかと思います。教育委員会の方にも伺ってみたのですが、まだそれを数として把握はしていないというふうに答えをいただきました。それぞれの学校で対応しているということだったので、実際、これから労働外国人を増やすという国の政策もありますし、今は都市部に外国人は増えていますが、今後、日光の方で生活する外国人の方がどんどん増えてくると思います。その場合に、把握をしておいた方がいいのではないかと思います。

**教育次長** 学校側の話をしていただきますと、外国の方の情報というのは、住民基本台帳から持ってきます。就学前であれば、就学する1年生になる時には、他のお子さんと同じように通知を出して、その時点で把握し

ています。先ほどありました、在学するお子さんが教育委員会で把握していないというのは、特に外国人の方が何人いるかという集計は取っていないのです。各学校は知っているけれども、教育委員会は分からないということです。反対に、特別扱いをしていないという状況です。就学時には、間違いなくそういう方がいらっしゃれば把握しています。実際に日本語が上手くできないお子さんがいた場合は、約半年間、臨時指導助手等を配置したりしてフォローはしています。そのくらいでお子さんの場合だと、ある程度日本語を理解できるようです。

**参加者10** おそらく生活面ではやれると思いますが、学習言語には追いつけず、困っているお子さんはたくさんいると思います。授業に参加できるかどうか、それから本人のアイデンティティを形成するための、概念語彙というものを形成できない子供たちがいる状態ですので、日光市の予算というものもあると思いますが、宇都宮市のような手厚いというものではないなと思うので、半年で区切るというのは考えないで検討いただければと思います。

**教育次長** 基本は半年なのですが、期間延長も行っていることがあります。宇都宮市の例というのも調べさせていただければと思います。

**副市長** 子育ての環境という観点で、8番目の方、お願いします。

**参加者8** 昨年もお話をさせていただきましたが、大沢地区には公園がありません。日光市地域福祉計画というのを見ましたら、森友にポケットパークというのが1ヶ所あるのですが、それくらいしかありません。大沢地区というのは、日光市の中でも高齢化率の低いところで、今市地区に次いで、若い人が多く住んでいるところです。日光市のアンケートを見ると、若年層では、暮らしやすいと思わないと答えた人たちが多くて、その理由として、親子で遊べる場がないからという意見が本当に多かったです。結婚を機に他の地域からここに移り住んで、出産して子供を育てるにしても、公園がない、ママ友に会うこともない、保育園や幼稚園に入れたいと思っても、その前に情報を得る場所がなく、そういう話し合いをする場もないという問題があると思います。吉田有希ちゃん事件のことも書いたのですが、その後大沢地区では、子供が外で遊ぶという姿をまったく見ることがないです。今でも大沢小学校では、集団下校は再開していません。子供が安全に安心して遊べる公園を、本当に切につくって欲しいと思っています。去年、小学校の校庭などを休みの日に一般開放してくれないかという話を教育長にしたところ、事故や怪我をしたらの補償ができないので、開放はできないという話でした。若い人たちは今後どんどん減っていきます。若い人たちに住んでもらいたいと思ったら、きちんとその環境を整えるべきだと思います。

**副市長** 9番の方、ご意見をお願いします。

**参加者9** 私も去年この会に参加させていただきました。実際ここで子育てしていて、子供を遊ばせる場所が切実になくて、だいや川公園にわざわざ車で行ったり、壬生や板荷の公園に行ったりして、地元で遊ばず市外へ遊びに連れて行っていったという感じです。自然豊かだからどこでも遊べるのかもしれませんが、きちんと整備されたところで皆が集える公園が欲しいと思います。子供が地元で遊ぶことで、子供が、大沢が良い場所で、

日光が良い土地で、この場所で自分も子育てしたいという大人に育ってくれればなと思います。まず大沢の立地を利用して、素晴らしい公園があったらいいなと思います。旧今市市の時代に、少年自然の家というものがあり老朽化に伴い閉鎖されてしまいました。日光市の子供たちが、現在どこに宿泊学習に行っているかという、板荷のキャンプ場をお借りしています。そういう施設を借りてやるのだったら、市外でやるのなら、日光市にそういう施設があれば、お金はかかるとは思いますが、低予算で複合的に使える施設をうまく考えたら、それらは市の財産になると思います。良い公園があれば人が集まるはずなので、ぜひ前向きに検討していただければと提案させていただきました。

**建設部長** 昨年もこのようなご意見をいただいております。また公園ができなかった経緯もお話をさせていただいた状況ですが、去年と同じ話をしても、前には進まないと思っております。具体的には、住宅の近くで歩いて行けて、今、お話のあったように宿泊もできるような広い公園をつくって欲しいと、どこに作ったらいいのか、具体的にこういう構想があるというお話をお聞かせいただけたらと思います。市の方へもそういった情報をいただければと思います。

**副市長** 規模の問題なのですが、前の方がおっしゃっているような、自分が住んでいるところから歩いていけるようなところに、小さめな公園があるといいなとか、どの辺の場所なのかということなどがあると思います。どちらかという、次の方がおっしゃっているのは、大きい公園のイメージなのかというところで、一括りにはできないと思います。やはり具体的なイメージがないと、我々も可能性を探るにしても決めにくいところがあります。もう1つ申し上げたいのは学校の活用の話ですが、今回、他の場所でもお話申し上げたのですが、土日に限ってという、全国的に見ても当たり前学校の施設は活用しております。土日だけに限らず、例えば、余裕教室があれば、そこを平日でも高齢者の方がサロンのように使っていたりとか、今、学校は子供の数が減っているんで、余裕教室があります。そこを複合的に使っていかなければ、資産の無駄遣いになります。そういった文部科学省の方針なんかでも示されていることもあって、他の県や地域によっては、そういった活用を積極的にやっているところも現実にあります。昨年申し上げたことは、この地区は吉田有希ちゃん事件などがありましたので、安全を第一に考えた時というのが、どうしても前面に出てきてしまっただけの判断や見解など今までであったと思いますが、その辺も検討の余地はあると考えています。

**教育次長** 昨年、前教育長から学校の開放は難しいというような話でした。学校の校庭は、確かに教育施設として使っている時は、なかなか使いづらいと思います。学校が使わない時は、学校開放として利用していただいています。スポーツ少年団だったり、地域の方々に利用していただいていますので、まるっきり開放してないことではなかったのですが、その中で本当に空いている土日とか、誰も使っていない時に、地域の方がそこを散歩するだとか、何かで利用するというのは可能だろうというふうに、私の方では考えております。ただ、それが制度としてきちんとできるかどうかということについては、まだまだ研究しなければならないと思います。使っていいですよという場合に、地域外の人が入り込んでいるとか、そういう色々な問題もできてしまうのかなというところもありますので、基本的には地域と共にある学校ですから、空いていけば使える方向で考えていきたいと思っています。

**市長** スポーツ少年団の野球やサッカーをグラウンドでやっている時、そこに小さなお子さんとお母さんが遊びに来ました。野球で打ったボールが飛んできて、子供にぶつかってしまいました。その時どうするかというところを、はっきり話しておかないとなりません。無責任かもしれませんが、駐車場で一切責任を持ちませんという同じ理屈で、小さなお子さんを連れて、もしスポーツ少年団をやっているところの端っこで遊ぶとすれば、ボールが飛んでくる可能性があることをお母さんに分かってもらって、遊んでいただくことにしないといけないと思います。そこら辺の共通認識をしっかりと整理してからということになると思います。

私は毎朝、落合中学校に無断で入ってウォーキングをしていますが、それとこれとは話が違いますけど、せつかくある施設はなるべく市民の皆さんに有効に使っていただければと思いますので、その辺は調整したいと思います。

それと、公園の話が出ましたけれども、いっぱい造ってきたものを、これから整備等もして公共施設の約3割を40年かけて減らしていくという時なのです。17、8年前の子供が小さい時は、どこに遊びに行ったかなと回想すると、日光の松原町に住んでいて、瀬尾にある松原公園や板荷のプールがあるところ、だいや川公園などです。ある程度大規模な公園となると、今ある施設もしくは他市で楽しめる施設があれば利用していただきたいと思っています。

日光市は広くて、足尾や栗山などスーパーがないところもある中で、少し我慢できるところは我慢していただくをお願いしていかないと、逆に先ほど言った高齢者の福祉のサービスとか、足の問題、そういうところにお金が使えなくなってしまう可能性が出てきます。まずは、今ここに暮らしている方の目先の困っているところから、しっかりと手当をしていくということを、これからはやらなくてはいけないとご理解いただければと思います。

**参加者8** もしこちらで、無償で土地を貸してくれるという方が見つかったら、前向きに検討していただけますか。

**市長** 公園のイメージを、具体的に教えていただけますか？

**参加者8** この公民館の中庭の倍くらいいいです。複合施設で、そこで子供が遊べて、自転車が乗れるくらいで、とにかく今、子供たちが自転車に乗れる場所がないのです。

**参加者12** 実は子供たちが遊ぶ場所がないので、公民館裏口の空いているところに階段をつくり始めまして、自分たちの場所をつくろうと動いているのです。子供たちが動いているのに、大人が動かないのは考えられません。今市地区の人口が2万3,000人ぐらいで、大沢地区は1万8,000人ぐらいで、日光市の中では多い人達がいる中で、若者は確かにいますけれども、子供たちは今市のほうが多いという気がします。新しい子が入ってきて、公園とか遊べる施設が1つでもあれば、もっと若い人が増えると思います。そうすると日光市としても財源の確保、中長期的なことを考えると、そういった場所があってもメリットは大きいのかなと思います。この辺、市長どうお考えですか。

**市長** 若い人には、とにかくどんどん来て欲しいと思うのですが、傾向的に見ると日光市の中で移住していて、人口が増えているのは大沢地区だけです。その他は全部減っています。栗山から森友とか、足尾から大沢とか、

日光から大沢とかあるとは思いますが、おそらくそのエリアだけです。大沢にはスーパーが3つあり、JRの駅が近く、利便性が高いのです。今のお話を聞くと、遊ぶ公園がないと思いましたが、それに関わらず、人口が増えているということは、ものすごく利便性が高いのだろうなと想像しました。そこにまた公園をつくれば、もっと移住してくると思います。日光で勉強して育った子供が、大学を出て社会人で勉強してまた戻ってくると、非常にありがたいなと思います。

今、いただいたお話も重々分かりますけれども、皆さんがおっしゃっているイメージと、自転車が走るとすれば平らにすると思います。対象者が3歳から小学校高学年なのかとか、遊具はどういうものがあればいいのか、それを実際に検討・調整していただけるとすると、造成にいくらぐらいかかってとか試算させていただいた中で、検討させていただきたいと思います。今、この場で分かりました、造りましょうと言っても、イメージがわいていない、細かい打ち合わせができていない、場所を確認していないので、一刀両断、ノーと言うつもりはないので、宿題として持ち帰らせていただいて、お時間をいただければと思います。

ただ、先程も言ったようにこの地区は本当に人口が増えていて、今でも住みやすく、地域の評価は高い場所だと思います。先ほどの方がおっしゃったように、実は交通の便が悪いところもあれば、高齢者の皆さまが不便な思いをしているところがあります。色々なところが待たなしたと思うのです。ですから、行政もこれまでも増してスピード感を持って、市民の皆さまのニーズに応えられるようにやっていきたいと思っています。公園に関しては検討させていただきます。

**参加者1** 今、公園についてかなり前向きなお返事をいただいたわけですが、ここで市長に約束をしてもらいたいと思います。今、土地があればという条件を出しましたけれども、ここの中庭の2~3倍くらいの土地を、行政の方でも含みで前向きに検討しますと、約束をいただければと思います。約束をしてください。

**市長** 先ほど言いましたけど、このままいくと日光市は破綻すると思います。本当にお金がありません。造るだけ造って、あとは返済の山です。そこに、今度は独協の病院の問題もあります。そういう中であって、軽々と前向きにというのは難しいです。まず場所を見させていただかないと、アクセスによっては道路を入れるべきか、土壌によっては入れ替えがどれくらい必要なのかも分かりません。検討はしますが、ここで前向きにというのは勘弁してください。

**参加者1** 約束というのは、公園については我々住民の方も色々案を持ちながら、話し合いでこれから進めていきたいと思っています。そういった意味での約束ですが、必ず造りますというような約束をもらいたいということではないのですが、そういう話し合いをこれから進めていくという約束をいただければ、ありがたいなと思うのですが、どうでしょうか。

**市長** 分かりました。話し合いを進めていくということは約束します。

**副市長** 今のお答えで、例えば10番の方のフリースペースについては、全然違った視点だったと思うのですが、関連というか流れの中でお話を伺いたいということと、12番の方は、痛ましい事件もあった中で、このままだと地域の中でどうしても心配が先に出て、今1つ安心な環境の中で子育てができていけないのかなという発展的な話も、この中に含んでいるのかなと思ったものですから、お聞かせください。

**参加者10** フリースペースが少ないと書いたのは、ほぼ先ほどの考えと同じなのですが、私の場合は小さい子供がまだいるので、小学校にあがる前の子供たちが遊ぶ場所というのが、かましんのところの上のスペースに行く、もしくは保育園や幼稚園で開放日があってそこに行くことぐらいしかピンとこなかったです。インターネットで検索をしても、そういうふうに出てしまうということもありまして、私のイメージとしては、とにかくどこかに行ったら皆がいて、例えば公園に行ったときにそういう話ができる、先程の方がおっしゃったように、幼稚園はここがいいよなどという話も含めて、世間話ができる場というのが、大沢地区にはないのです。この施設があったとしても、中に入るといのは、私たち子育て世代の中では何か利用する目的がないと使えない気がします。そんなことないですとおっしゃるかもしれませんが、そういう感覚になっています。もっと広いスペースで、誰かいた、ちょっと遊ばせてみようという気軽な気持ちで集える場所が欲しいのです。これくらいのスペースでも、もう少し大きくてもいいので欲しいです。

**副市長** 場所の問題とかも、なかなかこの場でここはどうという話にはならないと思いますし、大沢地区も広いので、果たして、ここでいいのかという議論も併せてしていかなければならないと思います。次に12番の方をお願いします。

**参加者12** 魅力あるまちづくりということに対して、色々な方がおっしゃられているとおり、大沢地区というのは特殊な場所として、子供の遊んでいる姿をほとんど見ない場所です。少し離れれば今市地区はまちへ遊びに行ったりだとか、外で普通に遊んでいる子供たちがいる中で、そういったことが全く見られないまちが、果たして魅力あるまち、活気あるまちなのかと考えた時に、疑問に思うところです。事件があった時、私は大学生くらいで、旧公民館の方に子供たちが遊びに来て、我々大学生とかと一緒に遊んだりとか、自由に気兼ねなく遊びに来られる場所が公民館だったと思うのですが、そういった自由は今のところないと思います。事件があったからこそ、防犯という意識がすごく強い場所で、見守り隊の方もいますし、地域の方の防犯意識もとても強い場所だと私は認識しております。守るというのも勿論そうですけども、少しずつ子供たちの目線に立っていかないと、まずいのかなという意識があります。子供たちに関わっているので話を聞いてみると、友達の家すら分からないとか、道が全然分からないという話もありますし、それは親の送り迎えとかもあると思いますけれども、元の姿に戻すのは難しいと思うのですが、守るだけじゃなくて子供たちのことを考えた導き方というのを、市の方と一緒に市民も考えていかなければいけない時期なのかと思います。

**副市長** 5番目の方のご意見もお願いします。

**参加者5** 魅力ある地域というのは、年齢的、性別、全部考え方が違うと思います。私の年代で考えると、現在より孫ほどの時代になった時、今より安心して暮らしやすい、希望も持てる地域であれば、それは魅力ある地域づくりになっていくのだと思います。暮らしやすい条件ということで5つほど条件がありますが、これを推進していくためには何をすればいいかというのを、まず地域内に基地や核となる建築物や施設をつくることだと思います。それが例えば、大型商業施設や大企業の誘致とか、道の駅などの運営なども考えるべきだと思います。次に、基地や核に集うための移動手段の確保で、道路を整備することにより地域はもとより、県内外の人々の勧誘を行うと、地域が魅力あるものになると思います。それでは自分たちが何をすればできるかという



ことで、若い人の流出を防ぐため、定着できるように地域全体の雰囲気づくりに協力するとともに、地域に興味を湧くよう「伝統芸能」や「言い伝え」を伝承することなどがよろしいかと思っています。行政は誘致要請に必要な土地の確保や、道路整備事業の徹底を図っていただければ、魅力的ある地域づくりになってくるのではないかと思います。

**副市長** 将来的な話も含めて、次世代に繋いでいくという意味を大きく込めてのお話だったと思います。このあと市長のほうからお話をさせていただきます。

**市長** 皆さんどうもありがとうございました。進行から外れて、皆さんの意見を全て聞いていく方に集中をしたいと思ひまして、進行を副市長にお願いをした次第です。色々なご意見、それからご要望、それから役所に対する物足りなさとか、スピードのなさなど、ご指摘を承りました。非常に有意義なまちづくり懇話会になったと思います。持ち帰らせていただいたものもありますので、今後とも自治会の皆さんとの協議を進めてまいりたいと思います。

この資料の中にも、日光プライドという言葉積極的によく使わせていただいておりますが、色々なプライドを結構キャッチコピーで使っているところもありますが、一番訴えたいところは、今の私たち大人自身が、こんなまちはよくないと思っていると、そのことが子供たちに伝わりまして、子供たちは外の大学や旅に出たあとに、日光に帰らないようになって、違う終の棲家を見つけて行ってしまうのです。一度は外に出て冒険をしている子供たちが、日光に帰ろうと思ってもらえるような子供たちになって欲しいなと思っています。それは、今ここに住んでいる我々大人が、この地域はいいところだ、本当に住みやすいところだと思わないと駄目だと思ひますし、2市2町1村を見れば、長い歴史と文化と豊かな自然があつて、他にはない日光というものもありますから、名実ともに世界の日光にしていきたいと思ひております。このことを念頭において、教育の方とも力を併せて市政を担ってまいりたいと思ひます。

ただ、子供たちばかりのことだけでなく、今ここに暮している高齢者の皆さんも、少しでも安心して、毎日を健やかに、カラオケなどの習い事をして、日々を楽しく過ごしていただきたいなと思ひています。今ここに居る市民の皆さん、それから将来この地域を担ってくれるだろう子供たち、それから現役世代と、みんなが笑顔で過ごせるように、職員と力を併せて頑張っていく所存でありますので、どうぞ今後ともよろしく申し上げます。